

# 平成 29 年度第 1 回「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会」 「墨田区子ども・子育て会議」乳幼児ワーキンググループ議事要旨

日時：平成 30 年 3 月 20 日（火）午後 6 時 30 分～7 時 00 分

会場：墨田区役所 13 階 131 会議室

## 1 次 第

### (1) 開会

### (2) 報告事項

「子ども主体の協同的な学びプロジェクト合同発表会」結果報告

### (3) 議題

今後の「協同的な学びプロジェクト」について

## 2 配布資料

資料 1 「子ども主体の協同的な学びプロジェクト合同発表会」結果報告

資料 2 「子ども主体の協同的な学びプロジェクト合同発表会」アンケートまとめ

資料 3 成果物（案）

## 3 委員

### (1) 出席委員（敬称略）

高嶋 景子（田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科教授）

長田 朋久（横川さくら保育園長）

西島 由美（にしじま小児科院長）

宮村 柚衣（ちゃのま保育園代表）

近藤 ゆき江（八広幼稚園長）

桂本 圭子（寺島保育園長）

### (2) 欠席委員（敬称略）

岡田 真（江東学園幼稚園園長）

小林 恵子（両国子育てひろば施設長）

佐藤 まり子（ムーミン保育室施設長）

賀川 祐二（NPO 法人病児保育を作る会代表理事）

本多 美絵子（両国幼稚園副園長）

佐藤 達也（公募）

関 舞衣子（公募）

## 4 事務局

### (1) 部課長出席者

石井 秀和（子ども・子育て支援部長）、浮田 康宏（子育て支援課長）、高橋 義之（子育て政策課長）、金子 明（子ども施設課長）、村田 里美（子育て支援総合センター館長）

### (2) 区職員

長尾、関根、坂田、高橋、益田

### (3) コンサルタント

株式会社名豊 糸魚川、千葉

## 5 議事要旨

### (1) 開会

WG 長	これより開催いたします。
------	--------------

(2) 報告事項

「子ども主体の協同的な学びプロジェクト合同発表会」結果報告

事務局	(資料1及び2について、説明。)
WG 長	参加者は年々増えていませんか。250人程度だと思いますが、一般の方の参加が増えてきたように思います。
事務局	昨年のデータがなくて比較できず申し訳ありませんが、中には福岡から、このためだけに来られた一般の方もおられました。
委員	私は昨年度まで参加していました。私をカウントすると「一般」ということになります。「一般」という表現はわかりにくいので、「職種」という表現にしてはいかがですか。 アンケートの「3 墨田区の子育て政策に関して…」の5番目、最後のページの上から3番に、小学校教諭という言葉がありますが、小学校教諭は来ていたのでしょうか。
事務局	自ら職種を書いていた方は捕捉できますが、すべての方に職種を書いていたいていませので、捕捉できない部分もあります。
委員	「差し支えなければ、ご職業を教えてください」と書いていませんでしたか。
事務局	書いていないと思います。
委員	例えば、参加人数がこの3年間でどのように推移しているのか、内訳にはどのような変化があるのかを調べれば、経年で追うと成果を確認する手掛かりになると思います。その資料をよろしくお願いします。

(3) 議題

今後の「協同的な学びプロジェクト」について

WG 長	これまで3年間実施してきましたが、来年度以降どのようにするのか考える必要があると思いますので、事務局より提案があるとのこと。
事務局	(説明(資料3))
WG 長	提案を説明いただきました。4年目の来年度は例年のおりに実施し、5年目に向けて成果物を考えていこうという提案でした。このことについて、ご意見はありますか。
委員	31年度はプロジェクトを実施せずに、成果物を作成する年ということですか。
事務局	成果物が目的ではありませんが、31年度を総括、検証の年にしたいということ。
委員	本当の意味で評価するということは大変難しいことだと思います。マシュマロテストというものがありますが、実施結果を30年もフォローアップしています。マシュマロを我慢できた子どもたちが、どれほど社会的で成功するのかをみるということ。 このプロジェクトでも、1年間行った取組がその後の子どもたちにどのように影響されるのかが、本当の意味の評価になるのだと思います。その指標を設定することはとても難しいと思います。やったことによって、やらなかったときとどのように違ってくるのか、ということだと思います。人間相手の実験をしないといけないという考え方もありますが、結局はそのようなことになるのだと思います。その後、小学校に進んだときに、どう違うのかという評価が小学校から得られるのでしょうか。「やってみて、よかった」というだけではいけないと思います。周囲の保育園、幼稚園の方々が取組の内容について、どの程度理解されているのかも気になっています。やりたいと考えていたのに終わりになってしまおうのか、面倒なこ

	とはしたくないという考えなのか、いかがでしょうか。先生方の負担は大変だと思いますが、必要だということであれば、このような取組はしばらく続けていけるとよいと思います。
事務局	そこまで到達できると望ましいと思いますが、人的な問題もあって到達することは難しいというのが正直なところです。
委員	実は今年が最終年だと思い、ひきふね保育園に一番近い、曳舟小学校の校長先生を無理にお連れしました。そのとき、保育園の子どもが校長先生のところに行き、「ぼくは来年から入るのでよろしくね」とあいさつしたということです。せっかく実施するのであれば、そのような取組もしていくとよいと思います。
委員	<p>小学校の先生方にこの取組の意味をご理解していただけるとよいと思いますので、その部分を広げていきたいと思います。それは1年目からずっと課題に挙がっており、公開保育にぜひ参加していただきたいので呼びかけを進めてきましたが、なかなか広がっていきません。来年度、継続させていただけるのであれば、その課題をどうするのかを具体的に考えていかなければいけないと思います。</p> <p>もし、成果物をつくるだけでなく、検証する年なのであれば、どのようにすると成果が検証できるのか、今の時点でイメージされていることがあれば教えてください。</p>
事務局	アンケート結果が蓄積されていますので、それは追っていくべきだと思っています。また、参加した園の先生方へのヒアリング等も分析できればよいと考えています。
WG長	他の委員の方、来年度以降に関し、ご意見等はありませんか。
委員	できれば来年度以降も続けてほしいと思います。娘が大変喜びました。
委員	何を検証するのが問題だと思います。冊子をつくり、実施してきたことをそのまま掲載して終わりではなく、教育や福祉の考え方がどのように変わったのか、保護者の方にヒアリングすることも考えられると思います。年齢が上がっていき、発達が進むので適確に読み取れるかどうかわかりませんが、保護者の方が今までと違った成長を感じているのであれば、成果があったと言えるのではないかと思います。それが検証することにつながり、その後の継続を考えるとできると思います。小学校の先生方に声掛けしても時間がなくて来ていただけないという実態があるので、その点にも働きかけていかないと、幼保小中の連携ができないのではないかと思います。
WG長	本日は結論を出さなくてもよろしいでしょうか。来年度はこれまでのとおり実施することについては、賛成でよろしいでしょうか。5年目については、さらに議論を深めるということでもよろしいでしょうか。検証についてはいかがですか。
事務局	一応の方向性を出したいと考えていますが、まだ期間もありますので継続的に審議することでも問題はないと思います。
WG長	この後の子ども・子育て会議で、このことを報告させていただきます。この後の会議でも、他の委員のご意見も伺えたらよいと考えていますので、本日はここで締めさせていただきます。来年度は継続、再来年度については、もう少し議論をするということでもよろしく願いいたします。

(4) 閉会

WG長	閉会いたします。引続き、第6回子ども・子育て会議への出席をお願いいたします。
-----	--

以上